東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

2021年度 社会科・地理歴史公民科の取り組み

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2022-04-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 来栖,真梨枝 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173822

国際中等教育研究　第15号 p.105 ～ 108
東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要

2021 年度　社会科・地理歴史公民科の取り組み

Initiatives of the Social Studies Division, and of the Geography, History and Civics Division for 2021

社会科・地理歴史公民科　来栖 真梨枝

要旨

社会科・地理歴史公民科は１～４年生の全生徒に対して国際バカロレア（IB）ミドルイヤーズプログラム（MYP）の教科である Individuals and Societies（個人と社会）の枠組みにもとづき、中学校社会科のすべての分野と 4 年地理・公民の授業を実施している。また、第 5 学年および第 6 学年の 2 年間については、各学年約 15 名の生徒が IB におけるディプロマプログラム（以下、DP）による学習を進め、その他の生徒（以下、一般プログラム生）は文部科学省学習指導要領に基づくカリキュラムで学習を進めている。

本教科では、2015 年度から継続的に「目標・指導・評価一体型」の学習のあり方を追究してきたが、今年度はさらに、新学習指導要領の特に観点別評価の実施方法についてこれまで実践を積み重ねてきた MYP の観点別評価との対応関係についての検討を重ねた。

また、第三回目の実施となった社会科見学の取り組みも報告し記録に残しておく。

１．本校社会科・地理歴史公民科のカリキュラム

今年度の開設科目を表１の通りである。ここに示した科目以外に、本校の学校設定教科「国際教養」の中で開設されている第３学年の「社会イマージョン授業」、第６学年の「国際 A」の２講座、「国際 B」の１講座、第５・６学年の「DP TOK（知の理論）」も他教科の教員と分担し担当している。2021 年度は、これらの科目を専任教諭７名（うち、附属高等学校からの人事交流教諭１名）、高知県から派遣されている IB 教育研修教員１名、外国人講師１名が担当した。

表１　2021 年度社会科・地理歴史公民科の開設科目

	学年	科目等	分野・内容	単位数
MYP	1	社会	地理的分野	3
	2	社会	歴史的分野	3
	3	社会	歴史的分野（1 時間）公民的分野（3 時間）	4
	4	地理A		2
		現代社会		2
		現代社会（IM）	イマージョン科目として開設	2

一般プログラム	5	世界史 A	近現代世界史	2
		世界史 A（IM）	近現代世界史・イマージョン科目として開設	2
		日本史 A	近現代日本史	2
	6	世界史 B	前近代世界史	4
		日本史 B	前近代日本史	4
		地理 B		4
		倫理		2
		政治・経済		2
		世界史特講	学校設定科目	2
		日本史特講	学校設定科目	2
		地理特講	学校設定科目	2
		政治経済イマージョン	学校設定科目	2
DP	5	DP 歴史 HL	20 世紀を中心とした歴史 （教育課程特例校申請により「世界史 A」を代替）	5
	6			5

2．令和三年度（2021 年度）の取り組み

(1) 2021 年度授業研究会

本校は公開研究会と授業研究会を隔年で実施しており、今年度は学校として共通のテーマや全体会などを設けない「授業研究会」が実施された。また、前年度に引き続きオンライン開催となり、事前に授業動画を公開し、その後研究グループ別協議をオンラインで行うという形態がとられた。本校では一昨年度より研究グループ制度を採用しており、今年度も継続して研究グループが主体となり授業を公開した。研究グループとは同一学年の異教科の教員で構成されたグループで、それぞれ研究テーマを設定し、お互いの授業を観察しあい、研究授業を行うことになっている。

今年度社会科からは、研究グループ 6 年として山本勝治教諭が世界史 B の単元を公開した。また、藤木正史教諭が同グループ協議会のファシリテーターを担当した。研究グループ 5 年としては来栖真梨枝教諭が世界史 A の授業を公開した。いずれの詳細についても、各研究グループの報告をご参照いただきたい。

(2) 社会科見学

今年度、2019 年度から開始した第 4 学年を対象とした社会科見学を実施した。今年度も前年度の内容を踏襲し、地理 A の地形の学習に対応し地理歴史巡検を、現代社会の選挙の学習に対応し国会議事堂参議院参観を実施する予定であった。しかし、今年度は社会科見学実施日が岸田総理大臣の所信表明演説に対する各党の代表質問の最終日と重なり国会議事堂参議院参観は中止となり、日本銀行金融研究所貨幣博物館の見学へと変更した。今年度も Covid19 感染拡大によりすべての宿泊行事が延期もしくは中止になったことに伴い、すべての本教科専任教諭を動員することが可能となった。さらに、社会科見学実施学年から 2 名引率に協力していただいた。

また、今年度は突然のゲリラ豪雨によりクラスによっては地理歴史巡検の円滑な運営に困難が生じた。引率者の確保等の側面を勘案しても、次年度以降の実施時期については検討が必要である。

・実施概要

1．日時　2021 年 10 月 13 日（水）9 時頃～16 時 15 分頃

2．目的　4 学年地理歴史・公民科の科目である地理 A および現代社会の学習における理解を深めるため地理・歴史巡検および貨幣博物館の見学を実地において行う。
地理・歴史巡検 御徒町駅周辺～お茶の水駅周辺
貨幣博物館 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 1-3-1（日本銀行分館内）

3．引率　大橋典子、来栖真梨枝、中村文宣、藤木正史、前田陽子、水津竜也、山本勝治、楊田龍明、川原拓也、小林万純

4．日程　1 組　集合時間　9：15
集合場所　貨幣博物館前
解散時間　12：15 頃
2 組　集合時間　9：00
集合場所　JR 山手線・京浜東北線 御徒町駅南口「おかちまち パンダ広場」
解散時間　12：15 頃
3 組　集合時間　13：00
集合場所　貨幣博物館前
解散時間　16：15 頃
4 組　集合時間　13：00
集合場所　JR 山手線・京浜東北線 御徒町駅南口「おかちまち パンダ広場」
解散時間　16：15 頃

(3) 新学習指導要領の観点別評価

次年度より高等学校でも実施となる新学習指導要領の観点別評価の実施方法について、MYP の観点との対応関係を中心に教科で検討を重ねた。「知識・技能」は MYP の観点 A：知識・理解、観点 B：調査・探究と、「思考・判断・表現」は観点 C：コミュニケーション、観点 D：批判的思考を整合性が取れるとの仮説から検討を進めた。また、「主体的に学習に取り組む態度」としては MYP の観点とは別に評価を実施する必要があり振り返りシート等の作成を進めている。

一方、後期課程 5 ・ 6 年の観点別評価についても検討を進めている。2021 年度までは、本校独自の観点である、「知識と理解」「応用と分析」「知識の統合」を教科共通の観点として設定していた。現在、現行の観点と新指導要領観点の対応関係を確認し、5 段階評定の算出方法を検討している段階である。また、MYP 段階と共通した課題として「主体的に学習に取り組む態度」の評価が表面的な振り返りに陥らないための工夫や、他の関連との連動性などについての検討を進めている。

Initiatives of the Social Studies Division, and of the Geography, History and Civics Division for 2021

Abstract

In AY 2021, Social studies department offered all students in grades 1-4 several courses based on the framework of International Baccalaureate (IB) Middle Years Programme (MYP) subject of Individuals and Societies. In the fifth and sixth grades, about 15 students per grade study under the IB Diploma Program (DP), while the rest of the students (General Program students) study under the curriculum based on the MEXT Courses of Study.

We have continuously pursued the "integrated learning with objectives, instruction, and evaluation" since AY2015, and this year we further studied the implementation of the new Courses of Study, especially the new MEXT assessment with criteria, and its correspondence with the MYP assessment criteria, which we have been practicing.

In addition, we will report our efforts in the social studies field trip, which was held for the third time.